FINAL　LOVE

天使美羽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ＦＩＮＡＬ　ＬＯＶＥ

【Ｎコード】
Ｎ６５８１Ｄ

【作者名】
天使美羽

【あらすじ】
女教師に恋をしてしまった生徒の想いは……

中学校の放課後。

他の生徒は帰宅し、誰も居なくなった教室。

夕日で橙色に染まる教室で一人ぼんやりとする男子生徒の目線は、黒板の上の丸い時計に向けられる。

静かな教室で、時間だけが過ぎていく。

「……そろそろかな」

◆◆◆

生徒の向かった先は体育館の教官室。

ドアをノックして開ける。

「失礼します」

「あら」

机に向かっていた女性が椅子ごと振り向いた。

長い黒髪の美人だ。ジャージ姿で体育の教師らしい。

「遠藤君じゃない。まだ残っていたの？」

「あ、はい。帰っても、一人ですから……」

淋しそうに言った生徒に教師の表情も曇る。

そうよね。まだ中二なのに一人暮らしなんて……

生徒は母を病気で亡くし、父は他に女を作って家を出てしまい一人暮らしだった。

暗い雰囲気になってしまった事に気づいた生徒はハッとする。

「あの、先生は何をしてたんですか？」

「来週の期末テストの問題を作っていたの。遠藤君、調子はどう？」

「あ……」

問われてうなだれる生徒に教師はくすっと笑う。

「がんばってね」

「はい」

◆◆◆

机に向かう教師を生徒は見つめる。

……やっぱり気になる。思い切って聞いてみよう。

「あの、先生」

「ん？」

教師が生徒に顔を向ける。

「せ、先生は……こ、恋人っていますか？」

「え？」

意外な問いに教師は呆気にとられた。

生徒は恥ずかしくなって顔が赤くなる。

「どうしてそんなこと聞くの？」

「えっ！　あ、い、いるに決まってますよね！　すみません、変なこと聞いて」

赤い顔でうつむく生徒。

「……強いて言うなら、いないわ」

「え！？」

驚いて生徒が教師を見る。

「いたんだけど、この前フラれちゃったの。彼に他に好きな人ができて」

「え……」

先生がフラれた？

信じられなくてショックを受ける生徒。

◆◆◆

生徒の回想。

中学に入った僕は、ずっと一人だった……

クラスに馴染めなくて、暗い僕はクラスメイトに気味悪がられて

そんな時――

『あら、綺麗ねー』

『え？』

花壇の花に水をあげていると気が紛れた。そんな僕に声をかけてくれたのが大塚先生だった。

『きっと遠藤君のおかげね』

『え、どうして僕の名前』

『知っているわ。いつも花壇にお水をあげてくれているでしょう』

見てくれていたなんて知らなかった。

僕はすごく嬉しかった。

そして二年になった時――

『このクラスの担任になった大塚明美です。よろしくお願いします』

大塚先生が担任！？　信じられなかった。

すぐに僕に気づいて笑いかけてくれた。

『同じクラスになれたわね。よろしくね遠藤君』

『はい！』

本当に、すごく嬉しかった。

◆◆◆

「先生？」

すすり泣く教師に生徒が声をかけた。

教師は涙を拭って生徒に笑いかける。

「やだ、ごめんね。みっともないところ見せて。ちょっと思い出しちゃって」

「先生」

いたたまれなくなった生徒が立ち上がる。

「僕は、僕は先生が好きです！！」

唐突な告白に弾かれるように生徒を見る教師。

「僕なら、先生を悲しませるようなことはしません！！」

「え、遠藤君」

「先生！」

生徒が教師の両肩を掴み顔を近づける。

「や！　遠藤君やめて！」

抵抗する教師の唇を生徒は強引に奪う。

平手打ちの音が響いた。

「遠藤君。どうしてこんなこと」

「先生のことが好きだから」

真っ直ぐ教師を見て生徒が答えた。

ジンジンとする頬が熱い。

きっとこうなる事は予測していた。

「ダメよ、こんなこと。私達は教師と生徒なのよ！」

ああ、その答えも予測していたものだ。

やっぱり……

「……そうですよね。すみませんでした。先生、さようなら」

走って出て行く生徒。鞄を置いたままで。

遠藤君……。え、今さよならって？

教師がハッとする。

◆◆◆

教師の回想

『先生、また明日！』

『さようなら、遠藤君』

私がそう言うと遠藤君は嫌な顔をした。

『やめてくださいよ先生。さようならって、もう会えないみたいで嫌いなんです』

言われてみればそうかもね。

『だからまた明日』

『そうね、また明日』

それから私達はさようならと挨拶した事はない。

◆◆◆

遠藤君、どうしてさようならなんて。

居ても立ってもいられず教師は飛び出した。

校舎へ向かう途中、何気なく屋上を見上げた教師は目を見開く。

生徒がフェンスを登っていた。

「遠藤君！！」

まさか、やめて！

血相を変えて屋上へ急ぐ。

◆◆◆

教師が屋上に辿り着いた時には、生徒の姿はなかった。

生徒が登っていたフェンスの下に靴だけが揃えて置いてある。

教師の目から涙が流れる。

ごめんね、遠藤君……

教師はフェンスに手をかける。

あなたを、もう一人にはしないわ……

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6581d/

ＦＩＮＡＬ　ＬＯＶＥ

2010年10月9日00時15分発行